

新除草・調節剤

(Exvberone)

エ ク ペ ロ ン

(取扱メーカー) シオノギ製薬株式会社

対象作物：花木（マメツゲ、イヌツゲ、クルメツツジ 2, 3 年枝、カイズカイブキ、キンボウジュ、ヒマラヤシード、ドウダンツツジ）スギ、ヒノキ、クワ、チャ。

性状・作用特性：本剤には、有効成分インドール酪酸を含む液剤（0.4%）、粉剤 0.1%、0.5%、1.0%、2.0%）がある。液剤は発根促進作用がすでに認められているインドール酪酸の水に溶解し難い点を製剤技術上から改良し、水でうすめるのみで所定濃度の稀釈液にすることができる。粉剤は、最近普及しつつあるミスト繁殖に適するように特に工夫された製剤である。

液剤は、樹の種類によって異なるが、所定濃度の溶液にさし穂基部を一定時間浸漬、粉剤はさし穂基部 1 cm に粉衣してさし木しますと発根を促進すると共に根数を増加して健苗を仕立てる効果がある。

哺乳類毒性は、成分で急性経口毒性マウスで $LD_{50}=1760\text{mg}$ 、ラットで $LD_{50}=5000\text{mg/Kg}$ 以上で極めて低毒性で普通物として取り扱われる見込みである。

魚貝類に対しては、コイで $TLM_{50}=180\text{ppm}/48\text{hr}$ で、A 類に相当するものと考えられる。

使用方法：液剤は樹の種類によって異なるが 10 ppm ~ 200 ppm の溶液にさし穂基部 2 ~ 3 cm を 3 ~ 24 時間浸漬するか、または 1000 ppm ~ 4000 ppm の高濃度溶液に 3 ~ 20 秒浸漬してさし木する。たゞ、茶のさし木では 40

ppm の溶液にさし穂全体を 3 時間浸漬後さし木する。

粉剤は、樹の種類により適当する濃度の粉剤を選び、さし穂切口から約 1 cm に粉衣し、過剰のものを軽く振り落してさし木する。

使用上の注意：樹の種類に適当した濃度と製剤を選ぶことが必要です。品種や系統によっては効果のすくないものが有りますが、薬害は今までの数多くの試験例で全く見られない。粉剤で処理したとき、特にさし木後の土壌水分に注意し、適湿を保つことが必要である。

ゲザバックス乳剤 25

アメトリン除草剤

(取扱メーカー) 日本化薬株式会社

対象作物：柑橘、桑園、りんご。

性状・作用特性：本剤は、2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-S-トリアジン（アメトリン）を 25% 含有し、更に接触殺草力を増強するため非イオン系界面活性剤を加えた特殊乳剤で、雑草の生育期処理用に製剤化され、使用時に展着剤を加用する必要はない。本剤は非ホルモン型の吸収移行型接触剤で、従来の接触剤と大きく異なる点は、土壌処理効果による抑草期間が長くしかも処理層が安定しており吸収薬害がない。散布後の降雨による効果の低下はあまりない。宿根草には満足できる効果は得られない。効果の持続期間は 40 日 ~ 60 日程度で、土壌中の移動性は、砂土を除き小さい。

使用方法：気温の高い時期ほど効果が高く、

7月頃（梅雨明け直後），夏草対象に散布するのが最も効果が高い。使用量は桑園：本剤 500～750^a，柑橘，リンゴ：1ℓ～2ℓを約200倍の水に溶かし，加圧噴霧器で雑草の根元まで充分濡れるように散布する。

使用上の注意：気温の低い春秋には効果の出

現が遅れる場合がある。桑，リンゴの葉に薬液がかかると薬害が出るので雑草のみに散布する。雑柑類で使用する際は薬量を厳守する。防風樹には薬液をかけないようにする。宿根草には一時抑制するが，再生が早い。

楽な作業で良いみかん！

みかん摘果剤

今年も使いましょう

ナフサク®粉末

- 1回の散布で摘果作業が大巾に節減され、手間もかからず、経費も安上りです。
- 玉伸びがよく、ツヤの良い、すばらしいみかんがとれるので、大変増収になります。
- 熟期が早まるだけでなく、玉揃いも良いので採取、選果が楽になります。
- 主成分NAAの濃度が高いので、均一な薬液が簡単に作れ、安定した効果が期待できます。
- 摘果剤として最も古くから、広くそして多くのきびしい試験検討を充分行なってきた薬剤です。安心してご使用ください。

ナフサク普及会

クミアイ化学工業・トモノ農薬・北興化学工業・三共・九州三共

事務局 三共株式会社農薬部内
東京都中央区銀座3-10-17

編集後記

梅花は地に果て、桃花にかわる。麦の生育も活発となり、野山のあちこちに、緑色の縞模様を描く。

さて、これから雑草が生えはじめるが、これらの雑草退治は発芽初期の防除が最も大切で、これを怠ると、手がつけられないほど繁茂する。

除草剤の普及に従事されておられる方々には、これから多忙な日々が続くようになるが、健康に留意し、健闘されんことを祈る。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

電話 東京(03)502-4188～9番

昭和45年8月発行

植調第3巻第12号 ¥70（送料35）

編集人 日本植物調節剤研究協会会長 河田 党

発行人 植調編集印刷事務所 田口 宏

東京都豊島区池袋本町4丁目49番3号

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (986) 1063番